

道・真理・いのちである主の御跡を

主任司祭 吉池好高

11月の死者の月を迎え、第一日曜日には例年のように、お申込みいただいた、皆様にとって大切な神の御許に召された方々のお名前を祭壇に掲げてお祈りいたします。お世話になった歴代の神父様方、マイエ神父様、野口司教様、相馬司教様、佐久間神父様、岩崎神父様、岩橋神父様のお名前も改めて、感謝のうちに見上げて祈りたいと思います。

亡くなられた方々を思い起して祈るとき、わたしたちは最も真剣に祈れていることに気づくのではないのでしょうか。死者を思って祈るとき、自分の心の中にある日頃の思いが鎮められ、清められていることに気づくのではないのでしょうか。死者たちはそのようにして、神の近さをわたしたちに感じさせてくれます。死者のために祈ることによって、わたしたちは神のいのちのうちに祈っているのです。そのようにして、わたしたちが生きているいのちは、わたしたちが祈る、亡くなられた方々と結ばれていることを知るのです。普段の生活の中でともすれば忘れがちなわたしたちがその中に生きているいのちの絆に、あらためて気づかされるのです。

イエスの別れのことばを聞いたとき、弟子のトマスは言いました。「主よ、あなたがどこに行かれるのか、わたしたちにはわかりません。どうしたら、その道を知ることができるのでしょうか。」このトマスの問いにイエスは応えてくださいます。「わたしは道であり、真理であり、いのちである。」イエスは、御父の家をわたしたちを導き入れるために、この世に来てくださった、わたしたちにその道筋を示してくださる、道そのものなるお方です。イエスが示し、導いてくださる道こそが真理です。その道をたどって、わたしたちも永遠のいのちに達することが出来るよう、この世に来てくださったわたしたちの救い主です。

わたしたちは一人で初めてこの道を行くものではありません。わたしたちに先立ってこの道を歩み通して、父なる神の家にたどり着いた方々の後について、今この道を歩んでいるのです。いつか目的地にたどり着いて、先に着いた方々との神の家での再会に希望を託して。